



Challenge 力の限り挑戦 with full power

南アルプス市議会議員／防災士

桜田ちから

2022年
冬号

議員活動報告

Vol. 07

新型コロナウイルスのパンデミックやロシアのウクライナ侵攻などにより、世界の経済・社会は過去にない深刻な影響を受けております。今のところ、どちらも収束が見通せず、社会経済活動が正常化するまでには、まだまだ時間がかかるものと思われます。

一方で、私たちはコロナ禍を通じて、家族・友人・社会との「つながり」が幸せの重要な要素であることや、社会や私たち自身の強みと課題の両面を実感することができました。これらの経験を活かし、またチャンスと捉えて将来を見据えた取り組みにチャレンジすることが今、求められているのではないでしょうか。

さて、2期目当選から2年が経過いたしました。

年前私は、①開かれた議会を目指して議会改革と取り組みながら地方議員としての責任をしっかりとすること②多発する自然災害や感染症の蔓延を強く意識した防災・減災活動の強化を推進すること③人口減少や少子高齢化など私たちが直面している地域の課題解決に取り組むことなどを市民の皆様とお約束いたしました。本活動報告書には、それらの取り組み実績とまちづくりに対する直近の私の想いを掲載させていただきました。ご一読いただき、ご意見などお寄せいただければ幸いです。

桜田ちから



Sakurada Chikara

議会活動

2022年3月 第1回定例会 代表質問

令和4年度南アルプス市行政経営方針について

【質問1】

SDGsと組み合わせたユネスコエコパーク啓発事業の取り組み内容は。

【質問2】

SDGsの推進には、推進責任者の下に事務局を置き、経済、社会、環境の3層構造を把握する組織を編成し、組織の外から推進体制が明確に分かれる体制を構築する必要があると考えるが、市長の考えは。

【質問3】

櫛形山のアヤメなど、動植物減少に関する調査、検証の方法は。

【質問4】

絶滅危惧II類に指定されている「アカハライモリ」の生息調査を行う準備を櫛形西・北地区の皆さんが進めている。活動に対する市の協力を要請するが、市の考えは。

【質問5】

令和4年度末の本市におけるCO₂の実質排出量の削減は。

【質問6】

「将来を見越した消防団組織のあり方」について、どのような視点で検討するのか。



南アルプス市議会

代表・一般質問のインターネット放送
(YouTube配信)

2022年6月 第2回定例会 一般質問

南アルプスインターチェンジ周辺整備事業について

【質問1】

南アルプスIC周辺の開発可能性を探るために「SWOT分析」を用いた理由は。

【質問2】

報告された分析内容は、対象地域の現況を整理したにすぎず、分析目的の開発可能性や土地利用の戦略、戦術が明らかにされていない。分析が途中ではないか。

【質問3】

企業意識調査結果によれば、南アルプスIC周辺地域に魅力を感じている企業は約3割であったとのことである。これにどう対応し、計画を進めていくのか。



2022年9月 第3回定例会 代表質問

放課後児童クラブにおける学童の安全・安心を確保するための取り組みについて

【質問1】

入会児童数が、条例に定められた定員を上回っている多くの児童クラブの運用実態を市はどうに捉えて、児童の安全確保に取り組んでいるのか。

【質問2】

定員に対する入会児童数の割合が150%を超えている児童クラブが5施設ある。児童館と児童クラブが併設されている施設や農村改善センター等を利用している施設は、施設の使い方の工夫で過密状態を解消できると考えるが、市の考えは。

【質問3】

「危機管理マニュアル」を基本とした児童クラブの危機管理体制の構築状況は。

【質問4】

支援員のほとんどが女性である児童クラブの不審者侵入対策として、児童クラブと小学校とを直接結ぶ防犯ブザー等の設置を検討できないか。

【質問5】

AEDの設置状況の周知は。また、指導員に対するAEDの使用方法の訓練は。

Sakurada Chikara

議会改革

市議会は、昨年6月、議会改革検討委員会を立ち上げ、委員会内に設置した3つの班ごとにテーマを掲げて「市民のための議会運営」を目指した取り組みを進めています。

1班 議会の見える化&
市民の声を市政に反映

私は、2班と特別班(副班長)に所属し、2班では「議会による事務事業評価」の検討に携わりました。6月議会で常任委員会毎に評価対象事務事業を決定し、その後試行的に評価を行い、結果を当局に提出しました。現在は議員間討議や反問権・反論権の行使について議論をしています。

2班 行政の監視機能の強化&
政策提言

また、特別班では、タブレットPCと導入ソフトの選定や端末使用基準の制定などに携わりました。6月議会からタブレットPCと書類との併用を始め、12月議会からは完全ペーパーレスの議会運営がスタートしました。



議員活動



✓ 櫛形高尾地区への堆肥化施設建設設計画が取り下げられました

民間企業による高尾地区への堆肥化施設建設設計画が、去る6月1日、企業側が山梨県に提出していた申請書類を取り下げたことにより、事実上中止となりました。

櫛形西・北地区の皆様が、地元の意見を集約し市議会へ請願書を提出、議会は請願を全会一致で採択し、県に「施設の建設に反対する意見書」を提出しました。

地域の課題や南アルプス市のあるべき姿について考え、議論し、行動を起こしていただいた皆様の熱意がこのような結果に繋がったと受け止めております。



高尾 穂見神社

✓ 市之瀬台地における「アカハライモリ」の生息調査を実施しました

この地域の田んぼなどで昔からよく見かけた「アカハライモリ」の個体数が減少し、山梨県レッドデータブック上で「絶滅危惧II類」にランク付けされていることを知り、地元の有志とともに、櫛形西地区（下市之瀬・上野・中野・上市之瀬・平岡）と北地区（上宮地）の約300名の稻作を営む皆様のご協力を得て6月～10月の間、生息調査を行い、今、結果の集計を進めています。

先人達から受け継いだ市之瀬台地での農業と自然を守り続けてきたことが水生動物の生態系の保全に繋がっており、生態系の保護がエコパークの移行地域で暮らす私たち住民の役割の一つであると考え、活動を続けていきたいと考えています。



田んぼ等でのイモリの生息調査

✓ 「ふれあいいきいきサロン」をはじめました。

下市之瀬支え合い協議体「ラヴィの会」は、4月より「ふれあいいきいきサロン」として、新たな活動をスタートさせました。

運営は、いきいきクラブの会長さん、元民生委員さん、私と妻の4人。毎週月曜日の百歳体操やマジックショー、講演会、茶話会、映

画会などのイベントを開催し、参加者の皆様から「参加するのが楽しみ…」と言っていただいております。

「気軽に集い、仲間づくりができる場」を目指して活動を広げていきたいと考えています。



百歳体操の様子

✓ コスモスの花を多くの皆さんが楽しんでくれました

「下市之瀬花を育てる会」が8月に種蒔きしたコスモスの花が10月下旬に満開を迎え、市内外遠くは県外からも大勢の方がこの地を訪れ、花摘みや写真撮影など、思い思いに秋の到来を楽しんで

おられました。

地域の活性化や訪れてくれた皆様の心のケアに繋がってくれればと願っています。



40aの土地にコスモスの花

✓ 市内の中学校の電話に自動音声応答システムを導入

昨年の第2回定例会で、学校教職員の働き方改革の一環として市内小中学校の業務時間外の電話応答策として「自動音声応答システム」の導入を市教育委員会に提案しましたが、そのシステムが今年5月より市内の小中学校に導入されました。

長時間勤務となっている教職員の負担を軽減し、授業準備等に集中できる体制の整備に繋がってくれることを期待しています。



✓ 請願の紹介議員として活動

市連合PTA、市地区公立小中学校長会及び教頭会、そして、山梨県教職員組合中巨摩支部より市議会に上程された「加配定数を維持した上での小学校35人学級の実施、中学校での35人学級の

早期実施、教職員定数改善、及び義務教育費国庫負担制度拡充を図るために請願書」の紹介議員として活動し、国への意見書提出を実現しました。

✓ ほたるみ館の運営について

南アルプス特産品企業組合「ほたるみ館」の理事として運営に参画しています。

コロナ禍で各種イベント等の中止が相次ぐなど、これまでにない厳しい経営環境が続いているますが、理事長・副理事長はじめ理

事や会員の皆様が一丸となり、自主イベントの開催や新たな商品の開発、業務の効率化などに取り組んでいます。

皆様の「ほたるみ館」に対する更なるご支援をお願いいたします。



ほたるみ館

防災活動

南アルプス市防災リーダー連絡協議会の顧問として、協議会メンバーとともに取り組んだ主な内容をご紹介します。



下市之瀬区内
発行中

1 夏休み子ども防災スクール（2022年7月～8月）では、市内14カ所の放課後児童クラブで、395名の児童と51名の指導員の皆様を対象に、土砂災害への備え、応急処置、消火器と無線機の使い方を指導しました。

2 南アルプス市「市民活動フェスタ2022」に「防災リーダー連絡協議会ブース」を出展して、防災啓発活動を行いました。（2022年10月）

3 山梨県防災局主催の「防災シンポジウム」に参加し、災害への備えを学びました。（2022年11月）

4 市全体の防災力向上を目指した取り組みの参考とする為、市内全自主防災会の活動状況の調査を実施しました。（2022年10月～）



夏休み子ども防災スクール